



ぶぎん海外駐在員通信⑤

タイのペット文化とペット関連市場について

武蔵野銀行市場国際部海外進出支援室（千葉銀行バンコク駐在員事務所 出向）

鈴木 輔

武蔵野銀行は国際業務を推進する目的で、シンガポール、バンコク、香港に行員を駐在・派遣しています。

本連載は現地行員によるリレーエッセイとして毎回、現地の生活事情やトピックスをお伝えします。

はじめに

近年、タイではペットブームが急速に広がっており、それに伴いペット関連市場も大きな成長を遂げています。一昔前では、ペットを飼う習慣があまりなかったタイですが、前国王の影響や国民の所得増加など、さまざまな要因でペットを家族の一員として迎え入れるようになりました。

また、ペットを飼う層は独身者や高所得者が多く、子供と同様に大切に扱われる文化が確立されつつあることから、ペットのケアや健康管理に対する意識も高まっており、高品質なペットフードや用品、医療サービスなどペット関連市場の需要の拡大に寄与しています。

本レポートでは、タイのペット文化に触れつつ、ペット関連市場に焦点を当てて紹介してまいります。

一昔前のタイのペット文化と宗教との関わり

仏教では動物を大切にすることが重要とされています。タイのペット文化は仏教の影響を強く受けており、今でも多くの仏教寺院では、僧侶が野

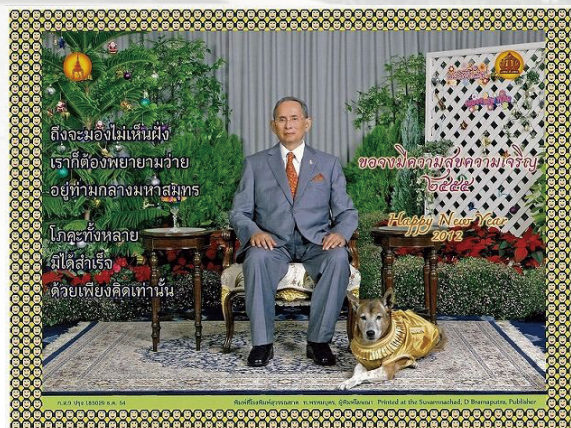


写真1

プミポン前国王と愛犬トーンデーンと一緒に写った年賀状

良犬や野良猫を保護してお世話している光景が見受けられます。この光景が、タイの一般市民にも動物愛護の意識を広め、人口の9割以上が仏教徒のタイでは動物を慈しむ心が根付いており、ペットを飼うことは慈善行為として考えられているのです。

また、もうひとつタイならではの文化があります。それは、タイ国民から絶大なる信頼を受けていた前国王のラーマ9世（プミポン国王）の存在です。プミポン国王は愛犬家として知れ渡っており、保護した犬から産まれた犬「トーンデーン」を特に大事に育てました。プミポン国王とトーンデーンと一緒に過ごす姿は、度々メディアにも取り上げられ、切手や年賀状にもなり、さらには、日本でも発売されているベストセラー本『奇跡の名犬物語 世界一賢いロイヤル・ドッグ トーンデーン』にもなりました。（写真1）

このような歴史的背景や文化から、ペットを大切にしているタイ人が多く存在しているのです。



タイでのペットの飼育環境や 日本とちょっと違った購入方法

前述では一昔前のタイのペット文化や歴史について触れましたが、ここでは、実際にタイに住んで感じた「今」について伝えていきたいと思います。

東南アジアの中では先進国とされているタイですが、インフラの整備は日本ほどされておらず、歩道には今なお段差や穴が多く存在しています。また、暑い時期は日中の最高気温が40℃を超え、歩きでの移動が大変な常夏の国タイでの飼育環境と併せて、日本とは少し違ったタイならではのペットの販売方法についてもお話しします。

首都バンコクでは、多くの高層ビルやコンドミニアムが建ち並び、タイの人口の約1割程度の人々が住んでおり一極集中の状態です。そんなバンコクでは、現在建設済みのコンドミニアムのうち、約5%がペット可能な物件として提供されています。物件の周辺には、ドッグカフェやドッグパーク、トリミングサロン、動物病院、ペットを連れていけるショッピングモールなどが存在しており、ペット専用の施設やサービスが充実しています。

一方で、バンコクから離れた農村部や工業団地では、スーパーマーケットでペットフードを購入ことは出来るものの、ペット専門店などはあまり存在しておらず、飼育環境は今でも犬や猫が自由に外を駆け回っており、都市部と農村部で大きな違いが見て取れます。

次に、ペットの飼育人口が増加しているタイでは、どのような種類のペットが飼われているのか、また、日本とは少し違った購入方法について紹介していきます。

タイで最も人気のあるペットは日本と変わらず犬と猫で、ペット飼育者の約8割を占めています。バンコクでは、コンドミニアムでの生活が主流であることから、特に飼育のしやすい小型犬や猫が好まれています。(タイ原産で有名なシャム猫は、王族に人気の猫種で、犬のように人懐っこい性格や洗練された美しい姿から、世界的にも有名でとても人気があります。)



写真2

チャットチャック市場ペットエリアの風景

ペットの購入方法ですが、もちろん日本と同じように店舗のショーケースでの販売やブリーダーから直接購入する方法もありますが、バンコクにはチャットチャック市場という有名な市場があり、その一角にペットエリアがあります。(写真2)

そこには、犬や猫だけでなく、鳥類や魚類、爬虫類(中には、猿や山羊も…)など、日本では見かけないような珍しい動物がたくさん販売されています。

東南アジアならではのエキゾチックアニマルや熱帯魚にも注目が集まっており、飼育者が増加傾向にあります。最近では、アジアアロワナやイグアナなども人気が高まっているようです。(写真3)



写真3

チャットチャック市場で販売されるアジアアロワナ(99,000タイバーツ、約40万円)とイグアナ



そんなチャットチャック市場は、タイの土地柄を活かした珍しい動物が販売されていることから、国内外の専門業者が買い付けに来ることはもちろん、地元の一般客や観光客、子供連れの家族も多く訪れ、一年中賑わっており一種の観光地として知られています。

また、筆者が驚いたのは、タイではSNSマーケティングが主流であることから、FacebookやTikTokのアプリケーション内にマーケットコンテンツが導入され、近年ではSNSを通じてペットを購入する方法も一般的となっていることです。個人での取引も活発化しており、ペットの選択肢が広がっています。余談ですが、Facebookのマーケットコンテンツでは、車や時計、住宅なども売買されており、衝撃を受けました。

タイのペット関連市場について

タイ国内のペット関連市場の規模は、2021年時点で約446億タイバーツであるのが、2026年には約50%拡大し、約667億タイバーツ（約2,668億円、1バーツ＝約4円）の規模まで拡大すると予想されています。同市場の成長率は毎年8%～10%程度で、飼育者の増加に伴い、ペット関連市場も成長を遂げています。

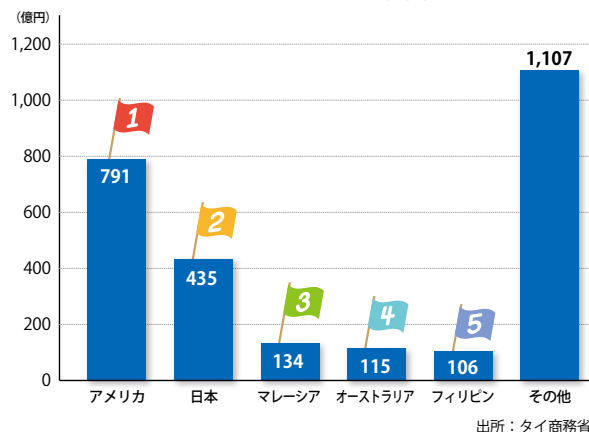
特にバンコクでは、幅広い商品を取り扱うペット用品店や最新の設備を備えた日本語対応可能な動物病院、日本の技術を取り入れたトリミングサ



写真4

バンコク内にあるペットモール

図1：ペットフード輸出先上位国（2023年）



ロン、ペットシッターなどのサービスを提供するお店が増加しています。また、ペット専門のお店のみが入居する複合施設も次々とオープンしており、その需要が伺えます。（写真4）

次に、ペットフードの市場に絞って見ていきます。製造業のハブとして機能しているタイでは、世界の大手ペットフードメーカーがOEMなどで生産を行っています。生産したペットフードは自国での消費はもちろん、世界に向けて輸出もされており、その輸出額は2023年時点で約672億タイバーツ（約2,688億円）と世界の中でもトップクラスのペットフード生産・輸出国となっています。主な輸出先は、アメリカ、日本、マレーシア、オーストラリア、フィリピンなどであり、そんなペットフード産業が盛んなタイでは、CPグループやBetagroグループなど国内大手食品企業も参入し、人間の食品と同基準の高品質ペットフードの開発が行われています。（図1）

タイでは、人間だけでなくペットの健康を気遣う飼育者が増加しており、高品質なプレミアムフードやオーガニックフードの需要が増加傾向にあります。特に、グレインフリー（穀類不使用）や特定の栄養素を強化したペットフードが人気を集めており、近年ではペットフードの種類やオンラインでの購入方法の多様化により、手軽に高品質なペットフードを購入できる環境が整っています。さらに、タイ国内外のブランド競争が繰り広げられており、新製品の開発や他国からの参入も盛んとなっています。また、ペットに最適な栄養を提



写真 5

バンコクで開催された展示会における犬用食品製造販売会社株式会社みちのくファームさま（飯能支店取引先）の出展の様子

供するため、高級な食品を使用した冷凍食品やフリーズドライ食品などの新しい形態のペットフードも登場しており、利便性と品質を両立させています。(写真 5)

ペットフード市場の成長は、ペットの健康に対する飼育者の意識の高まりと密接に関連していると考えられます。

タイのペット関連市場への日本企業の参入

タイのペット関連市場には、日本企業も積極的に参入しており、日本製の高品質なペットフードや用品、サービスがタイの消費者に受け入れられています。その中でも特に、ペットフードやペット共済の住宅の提供が注目されています。

具体的な例として、バンコクでコンドミニウムや戸建て住宅事業を展開する関電不動産開発（大阪市北区）が手掛けるペットフレンドリーな住宅プロジェクトでは、ペットと過ごす時間を子供との時間と同様に捉えるタイ人の流行に合わせて、バンコク郊外にペットと遊べる『ペットパーク』を併設した分譲戸建て開発を行い、バンコク都心部とは異なるペットとの快適な暮らしに重点を置いた住宅を提供しています。

また、いなば食品（静岡県清水区）は、日本国内での成功を背景に、タイ市場への参入を強化しています。同社のペットフードは高品質かつ健康

志向の高い製品として、タイの消費者に受け入れられています。また、現地のニーズに合わせた製品開発も進めており、タイ国内での市場シェアを拡大しています。(写真 6)

日本企業が提供するペットフードや住宅、動物病院、一般サービスなどは質の高い製品やサービスであることからタイでも受け入れられており、飼育者の安心感へ繋がっています。

おわりに

本レポートでは、タイのペット文化からペット関連市場について詳述してきました。仏教の教えやプミボン前国王の影響により、ペットを慈しむ心がタイの文化に深く根付いており、現在では多くの家庭でペットが家族の一員として迎え入れられています。

一方で、タイではまだまだインフラの不十分さや野良犬野良猫問題、狂犬病などの課題も依然として存在しています。そのような課題を抱えつつも、タイのペット関連市場は発展していくことが期待され、企業にとっても重要なビジネスチャンスになる可能性があります。

ペットを家族同様に大切にするタイの文化や人々の心を理解し、新たな製品やサービスの提供がさらに市場を拡大・発展させられると思われます。そうした大きな可能性を秘めたタイのペット関連市場に引き続き注目していきます。



写真 6

バンコクで開催されたペットフード展示会の様子